

令和6年度使用小学校用教科用図書の採択結果等について

採択地区名	尾道市
-------	-----

種 目	発行者	採 択 理 由
国語	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で身に付ける資質・能力を「言葉の力」として示すとともに、単元末では「ふり返る」で学びを定着させるように工夫されている。一年間で学習する「言葉の力」をロードマップで示すことで各単元の学びのつながりを実感できるようにしている。 ・SDGsをはじめ、様々な現代的諸課題の中で、児童に主体的に思考させることのできる教材を取り上げている。また、特設コラムで未来を切り開いていく意義について各界の著名人のメッセージを掲載している。 ・第2学年以上は、「読むこと」の単元と「書くこと」の単元の間、小単元「情報のとびら」を配置し、両単元を関連させる学習を設定している。 ・児童が読みやすい分量の文章と写真や図が結び付けられており、内容を理解しやすくなっている。挿絵や学習の手引きの内容が、その教材を使って学ばせたいことに迫るものになっている。 ・個人の考えや思いを発表する活動は全学年で、話し合う活動は3年生以上で系統的に展開している。QRコンテンツでモデルとなる話し合い方を動画で視聴することができる。
書写	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の単元では、書きやすい姿勢（足・背すじ・手）を意識させるために、リズムカルな標語で色を使って分かりやすく示している。 ・学習課題が設定しやすくなるように、比較したり拡大したりして分かりやすい表示が示されている。 ・様々な観点から「文字文化」に触れるページを複数取り入れ、児童の文字への興味関心を高め、学ぶ意欲を高める工夫をしている。 ・2学年～6学年に「書写のかぎ」が掲載されており、児童が学習事項のポイントを理解できるよう配慮されている。 ・「学びを活かそう」コーナーで、1年間の学習をまとめとして日常生活や学校生活に役立つ教材を取り上げている。

種 目	発行者	採 択 理 由
社会	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1時間ごとに、学習問題が「つかむ」「調べる」「まとめる」の学習過程が示されている。 ・ 毎時間ごとに「まなびのポイント」を示し、課題解決のための具体的な視点を明確にしている。 ・ 選択教材の数を絞り、視点を明確にした学習を進めることができるようにしている。 ・ QRコンテンツでは、見通しをもって学習が進められ、実感を伴った理解を促している。図や表を有効に活用するよう工夫されている。 ・ 「つかむ→調べる→まとめる→いかす」といった探究の基本的な進め方を示している。キャラクターの台詞を目印としている。キャラクターをモデルとして、社会科の見方考え方を使って探究的に学んでいく方法がわかりやすく示されている。また、学習の成果の様々な表現方法を示している。
地図	帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図帳の使い方を問題解決的に掲載し、地図の見方では色分けをして示している。「地図帳の使い方」では、キャラクターを通して学びの視点を伝え、問題解決的に実際に地図を使いながら学んでいくという方法をとっている。 ・ 索引は、それぞれの項目を5色の色と、6種の記号で記されており、（世界は3色）支援が必要な児童にも使いやすいものになっている。また、索引を使いたくなるような仕掛けがされており、児童が主体的に学んでいこうとする姿勢を引き出すような工夫がされている。 ・ 世界の統計資料を紹介する項目で、統計表に加えて「日本の農水産物・資源の輸入先」について記載している。瀬戸内海周辺の地図が掲載されている。 ・ 日本全図については巻頭や巻末、それぞれの掲載ページにおいて、都道府県及び地方区分、有名なもの、日本の領土とそのまわり、地形、気温、自然災害、土地利用、産業、歴史、日本の世界遺産の項目ごとに示されている。 ・ 地図と歴史を関連付けて調べることができるようになっていいる。地理的な視点で歴史を捉えることができ、特に明治元年と現在の土地利用の様子を比較して見ることができるようになっていいる。
算数	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元初めに、児童同士の対話によって目標を設定するようになっていいる。また、学習の最後に、次の学習につながる疑問が示されており、今後の学習の見通しが持てるようになっていいる。 ・ 「今日の深い学び」としてマイノートを学習に生かそうとまとめてあり、問題を解決していく自分の思考を振り返ることができるようにしている。また、その考えの視点も示している。 ・ 単元のまとめの後に「できるようになったこと」「次に考えてみたいこと」があり、その中で次の学年や中学校との関連が書かれている。また、全単元後に「卒業旅行」の中で中学校と関連のある内容に触れている。 ・ 実物の写真を使用し、実生活との関連を意識しやすくしている。 ・ 「今日の深い学び」を設定し、学習過程とともに側注として「数学的な見方・考え方」など話し合い活動を進めるためのヒントが書かれている。それをもとに説明の活動が展開できるようになっていいる。

種 目	発 行 者	採 択 理 由
理科	啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しく学習したことば」として、新しく学んだ概念を定着させる工夫がある。準備物の記載があり、番号と点線で手順を示し写真や図等を用いて説明している。初めて使う器具については同ページに記載している。安全に対して配慮が必要なところに「注意」「かん気」や「やけど」等のマークを付け赤文字で示している。 ・導入部分において既習事項の図や写真を明記し、既習事項から新たな課題を見出しやすくしている。 ・「くらしとリンク」のコーナーで、現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容を取り扱ったり、プログラミング学習の内容を扱ったりしている。 ・これまでに学習した大切なことを振り返る「まとめノート」を提示し、学習内容を振り返りやすいようにしている。 ・巻末に話合いの留意点を示している。結果等をどのように表現するのか例示されている。単元ごとに「ふり返ろう まとめノート」があり、自分でまとめる際のヒントとなっている。また、「たしかめよう」では、学んだことを使って説明する学習がある。言語活動の中で、理科を楽しむ見方や理科の考え方を学ぶ工夫がある。
生活	啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ・「できるかな」「できたかな」を設け、育てたい資質・能力の具体的な姿を示すことで、児童の自己評価の観点を示しており、指導と評価の観点が明確になっている。 ・他教科で学んだことを生かしながら、表現活動や振り返りに取り組めるよう設定されている。 ・5月頃までの入門期の単元の分量が多い。 ・見開き2ページの左上に、単元導入の「わくわく」、主な活動の「いきいき」、表現活動の「ぐんぐん」の3段階で構成されており、児童が見通しをもって学びやすく、児童が自然に主体的・対話的で深い学びに展開するよう工夫されている。 ・多様な表現活動が示され、そこで表現されたことを各単元末に伝え合う場を設けている。
音楽	教出	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽の指導事項がスモールステップで示され、階名ごとに写真で示されているなど、分かりやすく提示されている。鑑賞曲をQRコンテンツで付属するなど、興味関心を高める工夫もある。 ・日本や世界の音楽文化に親しめるよう示されている。(第2学年～) ・日本古来の歌の学習と、世界の音楽の学習を比較しながら文化の固有性に気付けるように示されている。 ・音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」と表し、要素を表すいろいろな言葉も明記して示している。(全学年) ・感じ方の違いを表現できるように、QRコードで開くと書き込めるように示されている。QRコンテンツが充実している。

種 目	発行者	採 択 理 由
図画工作	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・各題材の目標を、資質・能力を表す3種類のキャラクターと文章で示している。また、学習のめあてに対応し、どのような資質・能力を身に付けたか確認できるように問いかけることで、振り返りの視点を示している。 ・各題材名の上又は下に、活動のきっかけとなる文を示している。また、全ての題材でQRコンテンツから、タブレット端末等で導入動画と作品例を視聴できるように示している。 ・全ての学年の項目において、題材を（造形遊び）（絵）（立体）（工作）（鑑賞）の5項目に分類して配列している。作品を作った後に、関連する鑑賞題材を配置している。また、就学前教育からの接続、中学校との接続やキャリア教育への対応を示している。配列題材（造形遊び・絵・立体・工作・鑑賞）は「授業目標」と「表現内容（表現方法、題材、用具、対象等）」の二つの視点を系統的にバランスよく配置されており、用具や安全について分かりやすく示されている。 ・作品や造形活動について、発想・構想に関する発言やヒントを吹き出し等で示したり、作者の考え・感想を示したりしている。また、QRコードから、様々な映像や写真等を見ることができ、作品の作り方や道具の使い方等、学習内容を確認したり、ワークシートを使って発想や構想を広げたり学習を振り返ったりしている。 ・コミュニケーションや言語活動を重視した題材、共同で行うことを意図した題材が多く設定され、適宜話し合いの観点も提示しており、言語活動が充実する工夫をしている。また、各題材の左下に、「タブレットたんまつで見てみよう」というコーナーがあり、鑑賞カードや振り返りシートの型を利用することができたり、作品を見たりすることができる。それをを用いて言語活動が充実するよう工夫している。
家庭	東書	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての題材で、学習の流れがステップ1からステップ3で示されている。それぞれにステップの学習の後、振り返りの問いかけがある。 ・学年で学んだことを活かして実践していくことを狙いとしたページを設け、4つの視点で考えることを示し、どのように実践を進めていくかやり方を示している。また、夏休みわくわくチャレンジとして、学習したことを長期休業中に家庭で実践する場を設けている。 ・各題材に、導入で活用できる「トライシート」が用意されている。導入段階での意見の可視化、整理を通して課題を発見させる。トライシートには、思考ツールが活用されている。地域や家庭との関わりの中で、問題解決的な思考をする際に有効である。 ・野菜の切り方について、写真、図、動画で示してある。実物大の写真がそれぞれの題材のページに示してある。右利き左利きの動画が、別々になっている。 ・主に「活動 話し合おう」「活動 考えよう」「活動 調べよう」「活動 深めよう」のマークで示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を取り上げている。言語活動が充実している。

種 目	発 行 者	採 択 理 由
保健	学研	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書き込ませる部分が多い。実習の例示が文章や絵で行われ、チェック欄もある。実習後の気付きや振り返りを、キーワードを使って自分の言葉で記述させることで、基礎・基本の定着を図ることができる。QRコンテンツから実習の動画を確認できる。「科学の目」で、写真やイラストを使って実験が説明されている。 ・学習の進め方や課題解決の過程は、先頭ページの左上に時計のような形で示され、児童が今後実行したいことと学習の進め方に対する振り返りを、文章で記述するような仕組みになっている。 ・他者に比べて単元の目標の提示の仕方が詳しい。単元のはじめに、その単元で何を考えたり、話し合ったりしたらよいかのかが示されている。学習課題を持たせるような吹き出しが掲載されている。小単元の初めに「予想しよう」でイラストを提示し、「1資料を読み取る」「2原因を話し合う」「3学びを生かす」の3つの学習過程それぞれに応じた資料を記載している。不安や悩みへの対処の内容が充実している。 ・児童、担任、養護教諭のキャラクターを取り入れ、毎単元の終末部にシートが読み込めるQRコンテンツが配置され、所々に様々なコンテンツを見ることができるQRコンテンツが用意されている。 ・学習の流れの中に、〇〇について話し合う場面が設定されている。授業のまとめの場面では、もっと学習したいことを記述する欄がある。
英語	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ・Let's play →Activityの順番で必要な表現を練習した後、伝え合う活動ができるようになっている。Let's play ではゲームで表現に慣れ、Activityでお互いに伝え合う活動が組み込まれている。単元で必要な語句や表現の練習を音声や映像を使って言語活動ができる構成になっている。 ・聞くこと話すことの言語活動の工夫が主体的に学習に取り組むことにつながっている。 ・単元の導入において、会話場面や状況を明確に示している。聞き取りの視点も示されている。 ・児童自身が経験したこと等が少しずつ詳しく伝えられるように段階的に言語活動を導入し、最終的に児童が伝えたい事柄をスピーチできるようになっている。 ・5、6年で使う表現がそれぞれ別冊「word book」にまとめられている。「word book」は、習得した表現を記入できる欄がある。巻末に学習に使うカードが付いている。 ・Activity2のペアやグループでのやりとりの場面では、よい聞き手を育てるために、学習内容に合わせ、相手の話を聞いて「褒める」「質問する」「励ます」表現例を紹介するコーナーが設定されている。

種 目	発行者	採 択 理 由
道徳	日文	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭で主題に関わる投げかけを行い、教材文の終わりの「考えてみよう」「見つめよう・生かそう」という主題から思考が逸れることがない発問の示し方の工夫がある。 ・全ての学年で、「ぐっと深める」のページを設け、問題解決的な学習の手法を具体的に示している。 ・いじめを直接的、間接的に扱った教材とコラムを組み合わせ、「人としての関わりユニット」を設定しており、扱いが多面的である。また、コラム「心のベンチ」を設定し、情報モラルやSDGsについて学ぶことができるようになっている。多様な面から情報モラルを扱っている。 ・目次にユニットを設定し、学習のまとまりを示し続けて学習できるようにしている。3教材文連続のものもある。巻末に「内容項目」「教材名」「主題名」「テーマ」「他教科との関連」「作者・出典」を掲載している。 ・単元のまとまりごとの自分の考えをまとめる書き込み欄と、別冊の道徳ノートによって、自分の考えをまとめることができる。また、別冊の道徳ノートは、どの教室でも学びの質を保障するのに有効である。